

(5) 英語 (中学校第2学年対象)

1 相手の話を聞き、積極的に応答しようとする。

【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

【問題の概要】

<放送文>

Hi. You like volleyball, right? Yesterday I watched a TV drama about a volleyball player, Shiori. I like her very much. Did you watch it? It was really interesting.

- ア シオリ (Shiori) のことをとても好きだと共感する。
- イ シオリに関する番組を見られなくて残念だったことを伝える。
- ウ 今度クラスでバレーボールの試合をすることを提案する。
- エ シオリの話題に興味を示さず下を向いている。

【結果分析】(下段の「平均正答率」とは、それぞれの選択肢を選んだ生徒の英語における平均正答率を表す。)

	ア (正答)	イ (正答)	ウ (正答)	エ	その他	無解答
反応率	49.2%	29.4%	18.7%	2.1%	0.1%	0.5%
平均正答率	67.6%	67.0%	57.7%	50.4%	30.1%	20.2%

1は、相手の話を聞き、積極的に応答しようとしているかをみる問題である。正答は「ア」「イ」「ウ」のいずれかで、正答率は97.3%である。回答「エ」の要因として、相手の話題に対して積極的に応答し、コミュニケーションを継続するために必要な英語を聞き取れていないこと、応答に使う表現の定着が図られていないことなどによるものと考えられる。

2(1) 相手からの質問(疑問詞のある疑問文)に適切に応答できる。

【外国語理解の能力】

【問題の概要】

<放送文>

A: Hi! How are you doing?

B: I'm really busy now. We have a chorus contest, and I am practicing the piano very hard.

A: Oh. When is it?

- ア It's next Sunday. イ We like music.
- ウ It's in my school. エ Yes, it is.

【結果分析】

ア (正答)	イ	ウ	エ	その他	無解答
58.5%	15.3%	16.5%	8.9%	0.1%	0.7%

2(1)は、相手からの質問(疑問詞のある疑問文)に適切に応答できるかをみる問題である。正答は「ア」で、58.5%の正答率である。誤答の中で反応率が高いのは、「ウ」の16.5%及び「イ」の15.3%である。これらの誤答の要因として、疑問詞「when」を正確に聞き取ることができなかったことによるものと考えられる。

2(2) 相手からの質問に対して適切に応答できる。

【外国語理解の能力】

【問題の概要】

<放送文>

A: Hi! I visited my grandmother last Sunday. How about you?

B: I went to Shinjuku and saw a movie.

A: Great. How did you get there?

- ア With my mother. イ By train.
ウ Exciting. エ In the morning.

【結果分析】

ア	イ (正答)	ウ	エ	その他	無解答
15.5%	54.9%	17.3%	11.5%	0.1%	0.7%

2(2)は、相手からの質問に対して適切に応答ができるかをみる問題である。正答は「イ」で、54.9%の正答率である。誤答の中で最も反応率が高いのは、「ウ」で17.3%である。この誤答の要因として、例えば「A: How are you? B: I'm good.」のやり取りのような、様子を聞く疑問詞「How」と取り違えて、形容詞で応答する誤った判断をしたこと、「How」を交通手段を尋ねるためにも使うということや「get」に「着く」という意味があることを理解していなかったことによるものと考えられる。

2(3) 相手からの依頼に対して適切に応答できる。

【外国語理解の能力】

【問題の概要】

<放送文>

A: What are you doing, Ken?

B: I'm watching TV. (離れたところからの声)

A: Dinner is ready. Can you put spoons on the table?

- ア Me, too. イ You're welcome.
ウ Yes, please. エ Sure.

【結果分析】

ア	イ	ウ	エ (正答)	その他	無解答
6.6%	6.2%	32.0%	54.4%	0.1%	0.7%

2(3)は、相手からの依頼に対して適切に応答できるかをみる問題である。正答は「エ」で、54.4%の正答率である。誤答の中で最も反応率が高いのは、「ウ」で32.0%である。この誤答の要因として、この場面での「Can you ~?」が依頼を表す表現であることを理解できなかったこと、できるかどうかを問うcanと取り違え、Yes / Noで答えられる質問と誤解して選んだことが考えられる。

【授業改善のポイント】 既習事項を繰り返し活用する指導の充実を図る。

場面に応じて適切に質問に答えたり、相手の発言に応じたりするためには、様々な疑問文に慣れる必要がある。そのためには、既習の文を日々の授業において活用する場面を意図的に設定し、繰り返し触れる機会をつくることが重要である。例えば、毎時間の授業開始時に既習事項を活用させるやり取り（教師と生徒、生徒同士）を帯活動として行うことなどが考えられる。

3

<放送文>

Hello, everyone. This is my first class. I'm your English teacher, Alice Murray. Please call me Alice. I'm from Canada. I lived in the U.S. six years ago. I studied Japanese there. After that, I came to Japan. I live in Shinjuku now. You can see people from many countries in Shinjuku. It's a nice place.

I like cooking. I am good at cooking Chinese food. I like *gyoza* very much. I like music, too. My favorite music is jazz. I'm in a jazz band. I practice with other members every Sunday. I can teach guitar to you. Let's play jazz music together after school. OK? (生徒の複数の声で Yes, let's.) OK.

3(1) まとまりのある英文を聞いて、詳細を聞き取ることができる。

【外国語理解の能力】

【問題の概要】

アリス先生はどこで日本語を勉強しましたか。

ア カナダ

イ アメリカ合衆国

ウ 日本

エ 中国

【結果分析】

ア	イ (正答)	ウ	エ	その他	無解答
31.0%	39.1%	28.7%	0.7%	0.1%	0.4%

3(1)は、まとまりのある英文を聞いて、詳細を聞き取ることができるかをみる問題である。正答は「イ」で、39.1%の正答率である。誤答の中で反応率が高いのは、「ア」の31.0%及び「ウ」の28.7%である。誤答「ア」の要因としては、出身地を述べている「I'm from Canada.」という英文から、日本語を学習したのも「Canada」であると誤解したこと、誤答「ウ」の要因としては「After that」が「日本語を学んだ後」を表すことが理解できなかったこと、「I studied Japanese there.」の「there」を聞き取れなかった、あるいは意味を理解できなかったことによるものと考えられる。

3(2) まとまりのある英文を聞いて、詳細を聞き取ることができる。

【外国語理解の能力】

【問題の概要】

アリス先生が放課後、学校で生徒と一緒にしたいと考えていることは何ですか。

ア 生徒とジャズ音楽を演奏すること

イ 新宿にいるたくさんの人々を生徒に紹介すること

ウ 日本語を生徒から習うこと

エ ぎょうざをつくって生徒にふるまうこと

【結果分析】

ア (正答)	イ	ウ	エ	その他	無解答
67.5%	24.5%	2.7%	4.7%	0.1%	0.5%

③(2)は、まとまりのある英文を聞いて、詳細を聞き取ることができるかをみる問題である。正答は「ア」で、67.5%の正答率である。誤答の中で最も反応率が高いのは、「イ」で24.5%である。この誤答の要因として、「Let's play jazz together after school.」を正しく聞き取ることができず、「many countries in Shinjuku」から断片的な情報を誤って組み合わせて理解したことによるものと考えられる。

③(3) まとまりのある英文を聞いて、概要を聞き取ることができる。 【外国語理解の能力】

【問題の概要】

アリス先生はどのような人物ですか。
 ア 混み合っているとところが苦手である。 イ 中国語が得意である。
 ウ 料理と音楽が好きである。 エ アメリカ合衆国出身である。

【結果分析】

ア	イ	ウ (正答)	エ	その他	無解答
1.3%	1.7%	95.2%	1.3%	0.1%	0.4%

③(3)は、まとまりのある英文を聞いて、概要を聞き取ることができるかをみる問題である。正答は「ウ」で、95.2%の正答率である。正答率が高い要因として、「I like gyoza.」のような、小学校から慣れ親しんでいる表現は確実に聞き取ることができた生徒が多く、正しい選択肢を選ぶことができたと考えられる。

4 伝えたい内容を正確な英文で書くことができる。 【外国語表現の能力】

【問題の概要】

タクヤが、自分の家族についてスピーチをする際に、祖父について発表するための原稿を書く中で、「彼は英語を話す (ことができる)。」という意味の英文を書く。

【図】

【スピーチの原稿】

Hi, everyone!
 This is Hideaki Yamamoto.
 He is my grandfather.
 He is a doctor.
 He lives in America.

His favorite sport is basketball.
 He often watches basketball games on TV.
 He is very kind to everyone.
 Thank you.

【結果分析】

He speaks English. He can Speak English. (正答)	意味に合った文になっているが文法の誤りがある。	意味に合った文になっているが単語の綴りの誤りがある。	意味に合った文になっているがピリオド等の記入に誤りがある。	文法的には正しいが、意味が異なる。	文になっていない。	一部を日本語で解答	その他	無解答
39.7%	30.6%	6.9%	0.2%	2.3%	0.6%	0.1%	9.8%	9.8%

4は、自分の家族のことを紹介するという場面設定で、【図】を基に正しい英文を作成することができるかをみる問題である。正答率は39.7%である。誤答の中で最も反応率が高いのは、「意味に合った文になっているが文法の誤りがある。」の30.6%である。この誤答の要因として、主語「He」にあわせて動詞を「speaks」とするところを、三人称単数現在形の「s」をつけることを忘れ「speak」としてしまったこと、助動詞「can」を用いた際に、主語の「He」が三人称であることにより、誤って動詞を「speaks」にしてしまったことによるものと考えられる。

5 会話の状況を理解し、動詞を活用して書くことができる。

【外国語表現の能力】

【問題の概要】

次の(1)と(2)の英文が正しい文となるように、下線部ア、イの語をそれぞれ適切な形で書きなさい。(1) 友だちとの会話で

A: What did you do yesterday?

B: I アstudy English at home.

【結果分析】

「studied」 (正答)	「studied」のつづりに誤りがある。	語末のyをそのままに「ed」をつける。	「ing」をつける。	「s」または「es」をつける。	形を変えていない。	その他	無解答
53.2%	5.8%	22.6%	6.8%	2.3%	0.7%	3.5%	5.1%

5(1)は、会話の状況を理解し、動詞を活用して書くことができるかをみる問題である。正答率は53.2%である。誤答の中で最も反応率が高いのは、「語末のyをそのままに『ed』をつける。」で22.6%である。この誤答の要因として、過去のことについて述べる際に「ed」を動詞の語尾につけることは理解しながらも、「study」の場合には「yをiに代えた上で『ed』をつける」ということを理解していなかったことによるものと考えられる。

(2) 写真を見ながら

A: Is she イplay the guitar?

B: No, she isn't. It's a *shamisen*. It's from Japan.

【結果分析】

「playing」 (正答)	「ing」をつけているが、正答ではない。	「d」または「ed」をつけている。	「s」または「es」をつけている。	形を変えていない。	その他	無解答
47.1%	1.4%	13.6%	27.9%	1.1%	3.1%	5.8%

5(2)は、会話の状況を理解し、動詞を活用して書くことができるかをみる問題である。正答率は47.1%である。誤答の中で最も反応率が高いのは、「『s』または『es』をつけている。」の27.9%である。この誤答の要因として、Aの発話内容が現在進行形を用いた文であることが理解できなかったこと、主語が「she」であれば、動詞には常に三人称単数現在形の「s」または「es」をつけると誤解していたことによるものと考えられる。

【授業改善のポイント】「書くこと」の中で正確性を高める指導の充実を図る。

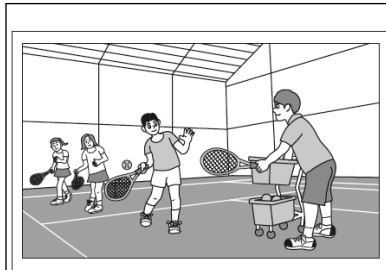
新学習指導要領では、「聞くこと」「読むこと」において、「必要な情報」「概要」「要点」を捉えるために一語一語や一文一文の意味など特定の部分のみにとらわれず目的に合った読み方をすること、「話すこと」において、「即興で」話す際には多少の誤りやたどたどしさがあるのは当然であることが示されている。一方で「書くこと」では、文字言語においては音声言語以上に正確さが重視されることから、文構造や文法事項を正しく用いて正しい語順で文を構成することや、伝えたいことについての情報を正確に捉え、整理したり確認したりしながら書くことが示されている。

4、5では、英文を書く場面や状況、意味について理解しながらも、文法的や語彙・表現の正確な知識については定着が不十分であることが伺える。生徒が書く英文の正確性を高めるために、日々の授業において英文を書かせる機会を意図的に取り入れ、添削結果を適切にフィードバックする場面、誤りの多い文法事項や語彙・表現等について生徒全員で共有する場面等を設定することが大切である。

6 前置詞の意味を理解している。

【言語や文化についての知識・理解】

【問題の概要】



次の会話の流れに合うように、()に入る最も適切な語を、それぞれ下のア～エの中から1つ選び、記号で答えなさい。

写真を見ながら

A: This is a picture (1) my tennis school.

B: Do you like tennis?

A: Yes. I play tennis (2) my brother every Sunday.

ア with イ of ウ to エ by

6(1) 所有を表す前置詞を理解している。

【結果分析】

ア	イ (正答)	ウ	エ	その他	無解答
11.7%	59.5%	19.1%	8.3%	0.5%	0.8%

6(1)は、所有を表す前置詞を理解しているかをみる問題である。正答は「イ」で、59.5%の正答率である。誤答の中で反応率が高いのは、「ウ」の19.1%及び「ア」の11.7%である。誤答「ウ」の要因としては、一般的によく使われる表現「go to school」等から「to my tennis school」という誤った句を作ってしまったこと、誤答「ア」の要因としては、「with my friend」のような句で用いることが多いことから「with my tennis school」という誤った句を作ってしまったことによるものと考えられる。また、完成した文を読み直しての確認が十分ではなかったことによるものと考えられる。

6(2) 同伴を表す前置詞を理解している。

【結果分析】

ア (正答)	イ	ウ	エ	その他	無解答
79.2%	6.1%	10.2%	3.1%	0.6%	0.9%

6(2)は、同伴を表す前置詞を理解しているかをみる問題である。正答は「ア」で、79.2%の正答率である。誤答の中で最も反応率が高いのは、「ウ」で10.2%である。この誤答の要因として、「with」の意味が十分に定着していないことによるものと考えられる。

7(1) まとまりのある英文を読んで、詳細を理解することができる。 【外国語理解の能力】

【問題の概要】

下線部 ①it が表しているものは何ですか。次のア～エの中から最も適切なものを1つ選び、記号で答えなさい。

ア Jim イ tennis ウ soccer エ Mike and Tom

【結果分析】

ア	イ	ウ(正答)	エ	その他	無解答
4.0%	9.2%	80.8%	5.1%	0.1%	0.8%

7(1)は、まとまりのある英文を読んで、代名詞「it」が表しているものを理解しているかをみる問題である。正答は「ウ」で、80.8%の正答率である。誤答の中で最も反応率が高いのは、「イ」で9.2%である。この誤答の要因として、代名詞「it」が既出の名詞を言い換えるものであることを十分に理解しておらず、「it」が後の文である「Mike and Tom are great tennis players.」の中の「tennis」を表していると誤解したことによるものと考えられる。

7(2) まとまりのある英文を読んで、趣旨を理解することができる。 【外国語理解の能力】

【問題の概要】

この手紙でマサルが一番伝えなかったことは何ですか。次のア～エの中から最も適切なものを1つ選び、記号で答えなさい。

- ア オーストラリアの人たちと野球をしたかったこと
- イ ジムと写真を撮りたかったこと
- ウ 父にコンピュータを買ってもらいたいこと
- エ これからも電子メールで交流をしていきたいこと

【結果分析】

ア	イ	ウ	エ(正答)	その他	無解答
5.2%	6.0%	3.7%	83.9%	0.1%	1.1%

7(2)は、まとまりのある英文を読んで、趣旨を理解することができるかをみる問題である。正答は「エ」で、83.9%の正答率である。正答率が高い要因として、まとまりのある英文の概要を捉える読み方ができ、選択肢「ア」と「イ」については本文中で触れられていないこと、選択肢「ウ」については過去の時制に気付き、過去の出来事として述べられていることを理解することができたことによるものと考えられる。加えて、願望を表す「want to」を含む文の意味を正確に理解することで、正しい選択肢を選ぶことができたと考えられる。

8(1) What+名詞で始まる疑問文の語順を理解している。 【言語や文化についての知識・理解】

【問題の概要】

友だちとの会話で

A: What (1 you 2 do 3 color 4 like) best?

B: I like blue.

ア 3-2-1-4 イ 3-1-2-4 ウ 2-1-4-3 エ 2-4-1-3

【結果分析】

ア(正答)	イ	ウ	エ	その他	無解答
42.3%	2.2%	53.6%	1.0%	0.2%	0.7%

⑧(1)は、「What+名詞」で始まる疑問文の語順を理解しているかをみる問題である。正答は「ア」で、42.3%の正答率である。誤答の中で最も反応率が高いのは、「ウ」で53.6%である。この誤答の要因として、「What+名詞」で始まる疑問文の意味や語順が十分定着していないため、疑問詞のない「like」の疑問文「Do you like～?」という語順と混同し、回答したものと考えられる。

⑧(2) 代名詞及び形容詞の入る位置を理解している。 【言語や文化についての知識・理解】

【問題の概要】

休み時間に A: Is that (1 new 2 our 3 teacher) ? B: Yes, he is. He is Michael. He is from Canada. He is nice. ア 1-2-3 イ 2-1-3 ウ 1-3-2 エ 2-3-1

【結果分析】

ア	イ(正答)	ウ	エ	その他	無解答
29.5%	56.9%	2.6%	10.1%	0.1%	0.8%

⑧(2)は、代名詞及び形容詞の入る位置を理解しているかをみる問題である。正答は「イ」で、56.9%の正答率である。誤答の中で最も反応率が高いのは、「ア」で29.5%である。この誤答の要因として、形容詞が含まれる場合の語順「代名詞(所有格)+形容詞+名詞」に十分に慣れていなかったことによるものと考えられる。

⑧(3) 3人称・単数・現在形の否定文の語順を理解している。 【言語や文化についての知識・理解】

【問題の概要】

昼休みに A: Do you like baseball? B: Yes, but my brother (1 not 2 it 3 like 4 does) . ア 3-1-4-2 イ 1-3-4-2 ウ 2-4-1-3 エ 4-1-3-2

【結果分析】

ア	イ	ウ	エ(正答)	その他	無解答
3.9%	6.2%	11.2%	77.7%	0.1%	0.9%

⑧(3)は、3人称・単数・現在形の否定文の語順を理解しているかをみる問題である。正答は「エ」で、77.7%の正答率である。誤答の中で最も反応率が高いのは、「ウ」で11.2%である。この誤答の要因として、「it」を主語の「it」と考え、()内を「it」を主語として並べてしまったものと考えられる。

8(4) What から始まる疑問文の中で副詞の入る位置を理解している。

【言語や文化についての知識・理解】

【問題の概要】

先生との会話で
A: What time do (1 get 2 usually 3 you 4 up) ?
B: I get up at seven every morning.
ア 2-1-3-4 イ 2-3-1-4 ウ 3-2-1-4 エ 3-1-2-4

【結果分析】

ア	イ	ウ(正答)	エ	その他	無解答
2.5%	5.8%	77.5%	12.9%	0.1%	1.2%

8(4)は、What から始まる疑問文の中で副詞の入る位置を理解しているかをみる問題である。正答は「ウ」で、77.5%の正答率である。誤答の中で最も反応率が高いのは、「エ」で12.9%である。この誤答の要因として、副詞は文中で通例一般動詞の前にくること、「get usually up」という語順にはならないこと、「get up」は「起きる」の意味の慣用句であることを十分に理解していなかったことによるものと考えられる。

【授業改善のポイント】基礎的な内容の定着を図る指導の充実を図る。

語順についての理解を深め、定着を図るためには繰り返し指導することが効果的である。特に、疑問詞を含む疑問文や、代名詞、形容詞、副詞の位置、慣用表現等について日本語と英語で語順が大きく異なる場合には、繰り返し活用することを通じて定着させることが重要である。

新学習指導要領は、コミュニケーションの目的や場面、状況を意識して活動を行い、英語の音声や語彙、表現、文法の知識を実際のコミュニケーションにおいて活用する学習の充実を図ることを求めている。このことを踏まえて、生徒の英語で表現する力を育成するためには、既習事項を活用させる授業を計画することが必要である。また、新学習指導要領においても現行学習指導要領と同様の趣旨に基づき、「文法はコミュニケーションを支えるものであることを踏まえ、コミュニケーションの目的を達成する上での必要性や有用性を実感させた上でその知識を活用させたり、繰り返し使用することで当該文法事項の規則性や構造などについて気付きを促したりするなど、言語活動と効果的に関連付けて指導すること。」としている。各授業においては文法事項を用いて何ができるようになるかという視点から言語活動を設定することに留意する。

例えば、語順を学習する場合、その語順のルールと例文を文法事項として学んだだけでは不十分である。8の条件設定にあるように、A と B の対話がどのような場面で行われているか意識させ、生徒が学習を通じて得た知識を繰り返し活用できるようにすることが重要である。

このような言語活動を通じて、生徒が英語で表現する活動の充実を図るとともに、何ができるようになったのかパフォーマンステスト等で適切に評価し、指導と評価との一体化を図っていくことが求められる。

9 場面にふさわしい表現を用いて書くことができる。

【外国語表現の能力】

【問題の概要】

場面にふさわしい表現を用いて、自分の好きなものについて実物や写真を見せながら紹介する際に、飼っている犬を紹介するためにまとめた【メモ】に沿って【原稿】を作成する中で、「(私は/私の家族は)犬を2匹飼っている。」という意味の英文を書く。

【メモ】	【原稿】
<ul style="list-style-type: none"> ・ 動物は好きか ・ 私は動物が好き ・ 犬を2匹飼っている (2匹の犬の写真を見せながら…) ・ 2匹の犬の名前はモモとココ ・ とてもかわいい ・ 私の母も2匹のことが好き 	<p>Hello, everyone.</p> <p>Do you like animals?</p> <p>I like animals very much.</p> <div style="border: 1px solid black; height: 20px; width: 100%;"></div> <p>Their names are Momo and Koko.</p> <p>They are very cute.</p> <p>My mother likes them, too.</p> <p>Thank you.</p>

【結果分析】

I have two dogs. My family has two dogs. (正答)	意味に合った文になっているが文法の誤りがある。	意味に合った文になっているが単語の綴りの誤りがある。	意味に合った文になっているがピリオド等の記入に誤りがある。	文法的には正しいが、意味が異なる。	文になっていない。	一部を日本語で解答	その他	無解答
56.5%	6.7%	4.9%	0.4%	2.3%	1.9%	0.1%	14.9%	12.3%

9は、場面にふさわしい表現を用いて書くことができるかをみる問題である。正答率は56.5%である。誤答の要因として、「飼う」という意味の表現として「have」を活用することができなかったこと、「複数形には『s』をつける」という文法の知識を活用して「two dogs」とすることができなかったことによるものと考えられる。

10 相手に自分のことを積極的に伝えようとしている。【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

【問題の概要】

アメリカでホームステイをするに当たり、滞在先の家族に自分のことを分かってもらえるように自己紹介文を作成する。自分の年齢と好きな教科に加え、自分自身のことを続けて書く。

【結果分析】(下段の「平均正答率」とは、それぞれの選択肢を選んだ生徒の英語における平均正答率を表す。)

	3文 (正答)	4文 以上 (正答)	2文	1文	一部を 日本語で 解答	日本語 のみで 解答	その他	無解答
反応率	23.3%	62.1%	5.2%	2.6%	0.6%	0.2%	0.8%	5.2%
平均正答率	63.5%	72.0%	44.9%	38.2%	31.7%	29.0%	40.4%	30.5%

10は、相手に自分のことを積極的に伝えようとしているかをみる問題である。正答率は85.4%である。本問において書いている英文の数が多いほど、教科全体の平均正答率が高くなっている傾向が見られる。

【授業改善のポイント】自分の考えや意見を英文で書かせる指導の充実を図る。

「書くこと」における「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」を育むためには、例文の語彙を入れ替えて形式的に英文を作成させるだけでなく、自分が好きなことや嫌いなこと、学校生活や家庭生活、日常に行っていることや過去の出来事、休日の過ごし方や将来の夢など、自分のことを発信する機会を設けることが大切である。また、簡単な語句や文を用いて口頭で伝える活動をした後に、その内容を書いてまとめるといった言語活動を設定し、よく見られる間違いについて全体で共有するなど、毎時間一文でも自分自身のことを書く時間を設定し、継続的に英文を書くことに慣れさせることも必要である。

11(1) 英文から、必要な情報を正確に取り出すことができる。 【必要な情報を正確に取り出す力】

【問題の概要】

ショーンが今年の夏休みにしたいこととして最も適切なものを、次のア～エの中から1つ選び、記号で答えなさい。



Last summer, I visited my uncle with my family. We enjoyed video games with him. He is a very good player. We sometimes went to a park for tennis, too. I had a good time. This summer, I *want to swim with my family.

- ア おじさんを訪ねること イ ビデオゲームをすること
ウ 公園に行くこと エ 泳ぐこと

【結果分析】

ア	イ	ウ	エ (正答)	その他	無解答
9.0%	9.8%	3.8%	76.1%	0.1%	1.2%

11(1)は、英文を読み、ショーンが今年の夏休みにしたいことは何かを読み取る問題である。正答は「エ」で、76.1%の正答率である。誤答の中で反応率が高いのは、「イ」の9.8%及び「ア」の9.0%である。これらの誤答の要因として「visited my uncle」「enjoyed video games」の過去時制に注目することができなかったことによるものと考えられる。

11(2) 複数の情報を比較・関連付けながら、英文の内容を読み取ることができる。

【比較・関連付けて読み取る力】

【問題の概要】

ショーンは家族一人一人に今年の夏休みにしたいことについて聞きました。それぞれの意見を読み、ショーンがしたいことと最も近い内容のことを述べている人を、次のア～エの中から1つ選び、記号で答えなさい。



Let's go to a museum and see pictures. I also want to eat Japanese food, like *sukiyaki* or sushi.

父 ライアン (Ryan)



I want to see stars at night. Stars are so beautiful. I want to eat Chinese food, too.

母 スー (Sue)



I want to go to the *sea or to a *river and see fish. I want to take pictures of them and also swim there.

妹 エミリー (Emily)



I want to eat Chinese food. I like Japanese food, too.

弟 ジョン (John)

- ア Ryan イ Sue ウ Emily エ John

【結果分析】

ア	イ	ウ (正答)	エ	その他	無解答
4.1%	4.0%	88.0%	2.5%	0.1%	1.3%

11(2)は、ショーンの家族へのインタビュー結果から、内容を比較・関連付けて、ショーンの希望と最も近いことを述べている人物を選ぶ問題である。正答は「ウ」で、88.0%の正答率である。正答率が高い要因として、「swim」のように学校生活との結び付きが強い語彙には十分慣れ親しんでいること、またその結果としてショーンの発言である「This summer, I want to swim with my family.」とエミリーの発言にある「sea」「river」「swim」という語彙を関連付け理解できたことにより、正しい選択肢を選ぶことができたと考えられる。

11(3) 得られた情報を基に、結論を導き出すことができる。

【意図や背景, 理由を理解・解釈・推論して解決する力】

【問題の概要】

ショーン, ライアン, スー, エミリー, ジョンの5人は、今年の夏休みに泊まるホテルを探すため、ホテルのホームページを見えています。次の【ホームページの内容】(省略、資料編参照)から判断して、家族5人全員の希望を満たせるホテルとして最も適切なものを、下のア～エの中から1つ選び、記号で答えなさい。

ア Hotel A イ Hotel B ウ Hotel C エ Hotel D

【結果分析】

ア	イ	ウ (正答)	エ	その他	無解答
27.5%	7.7%	55.2%	7.2%	0.9%	1.5%

11(3)は、各ホームページの内容とショーンの家族の発言とを比較し、根拠を基に推論することで家族全員の希望を満たすホテルを選ぶ問題である。正答は「ウ」で、55.2%の正答率である。誤答の中で最も反応率が高いのは、「ア」で27.5%である。この誤答の要因として、ライアンの希望である「美術館で絵画を見ること」を見落としたことにより、Hotel Aが家族全員の希望を満たしていると誤解したことによるものと考えられる。

12(1) 英文から、必要な情報を正確に取り出すことができる。 【必要な情報を正確に取り出す力】

【問題の概要】

カズオは留学先のニュージーランドの学校の【掲示板に貼られているポスター】を見えています。催し (Animal Days) の期間中にできることとして、最も適切なものを、下のア～エの中から1つ選び、記号で答えなさい。

- ア 夜に動物を見ることができる。
- イ ゾウやキリンのような大きい動物に触れることができる。
- ウ 動物園にいるすべての動物にエサを与えることができる。
- エ ミラー (Miller) 氏とアフリカに行くことができる。

【掲示板上に貼られているポスター】

Animal Days

The City *Zoo has "Animal Days" every winter.
Come and learn about the animals!
Open 9:30 Closed 16:30

Dates: from Thursday July 27 to Sunday July 30

You can give food to some animals.
You can play with small animals like rabbits.
We have *tours of the zoo at 10:00, 11:00, 13:00, 14:00, and 15:00.
We have a night tour at 19:00 on July 28 (30 persons only).

Mr. William Miller *will talk about animals from Africa.
Place: African *Zone

Talks: 1st July 27 14:00-15:00
2nd July 28 10:30-11:30
3rd July 29 ① 10:30-11:30
4th July 29 ② 14:30-15:30
5th July 30 ① 10:30-11:30
6th July 30 ② 14:30-15:30

【結果分析】

ア (正答)	イ	ウ	エ	その他	無解答
50.8%	9.1%	29.0%	9.4%	0.1%	1.6%

12(1)は、掲示板上に貼られているポスターから、催しの期間中にできることを選ぶ問題である。正答は「ア」で、50.8%の正答率である。誤答の中で最も反応率が高いのは、「ウ」で29.0%である。この誤答の要因として、「You can give food to some animals.」における「some」を正確に読み取ることができなかったことによるものと考えられる。

12(2) 複数の情報を比較・関連付けながら、内容を読み取ることができる。

【比較・関連付けて読み取る力】

【問題の概要】

【掲示板上に貼られているポスター】を見たカズオは、友だちのケビン (Kevin) とルーシー (Lucy) と3人で動物園に行くことを決めました。次の3人の【スケジュール帳】(省略、資料編参照)から、全員が一緒に参加できる催しとして最も適切なものを、下のア～エの中から1つ選び、記号で答えなさい。

- ア 7月27日(木)の13:00からのツアー
- イ 7月28日(金)の夜のツアー
- ウ 7月29日(土)のミラー氏の講演(第3回)
- エ 7月30日(日)のミラー氏の講演(第6回)

【結果分析】

ア	イ	ウ (正答)	エ	その他	無解答
10.0%	11.3%	67.1%	9.6%	0.1%	1.9%

12(2)は、ポスターの内容やスケジュール帳の内容を関連付けて、カズオ、ケビン、ルーシーの3人が参加可能な催しを選ぶ問題である。正答は「ウ」で、67.1%の正答率である。誤答の要因として、ポスターに示されている催しの内容と、3人それぞれのスケジュール帳の内容を比較・関連付けて読み取ることができなかったことによるものと考えられる。

12(3) 複数の情報を基に、結論を導き出すことができる。

【意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力】

【問題の概要】

カズオは、来週以降の予定について、クラスでスピーチを行うために次の【原稿】(省略、資料編参照)を書きました。【原稿】(省略、資料編参照)の①と②に入る文の組み合わせとして最も適切なものを、下のア～エの中から1つ選び、記号で答えなさい。

- ア { ① I can have a night tour with Kevin and Lucy at the City Zoo.
② I often swim with my friend Kevin.
- イ { ① I can have a night tour with Kevin and Lucy at the City Zoo.
② I have a tennis camp for five days, from July 31 to August 4.
- ウ { ① I can listen to Mr. Miller with Kevin and Lucy at the City Zoo.
② I often swim with my friend Kevin.
- エ { ① I can go to the City Zoo with Kevin and Lucy.
② I have a tennis camp for five days, from July 31 to August 4.

【結果分析】

ア	イ	ウ	エ (正答)	その他	無解答
10.4%	30.5%	11.7%	44.8%	0.1%	2.5%

12(3)は、複数の情報を基に、結論を導き出すことができるかをみる問題である。正答は「エ」で、44.8%の正答率である。最も反応率が高かったのは、「イ」で30.5%である。この誤答の要因として、【掲示板に貼られているポスター】より、ナイトツアーは限られた日・限られた人数で行われることを読み取れず、「3人でナイトツアーに参加できる。」という誤った理解の基に、スピーチの内容を推論してしまったことによるものと考えられる。

【授業改善のポイント】 様々な読み方を通じて理解を深める指導の工夫をする。

まとまりのある英文を読んで「必要な情報を正確に取り出す」「比較・関連付けて読み取る」「意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する」ためには、様々な読み方を通じてその英文に対する理解を深める必要がある。特に分量の多い英文を読む際には、「必要な情報を読み取る」「概要を把握する」「要点を捉える」といったように、求められている状況に応じた読み方が必要になる。教科書の英文を読む際にも、常に読み取らせるポイントを意識させながら、把握する内容に軽重をつけた読み方を指導していくことが重要である。

本間のような、精読を通じて必要な情報を読み取ることが求められるような状況に対応するためにも、様々な読み方の指導の工夫を通じて、生徒の読む力の育成を図ることが大切である。